



～地域とともにある学校をめざして～

鯨コミ

R8 年度 CS通信No.3 R8.6.4



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

アドバイスで踊りも心も一つに!西海小学校



5月18日(月)、鯨ヶ沢町無形文化財保存会の皆様を講師にお招きし、「鯨ヶ沢甚句」の指導が行われました。この日は、西海小学校担当の地域学校協働活動推進員 工藤律子さんの声かけにより、9名もの保存会会員の皆様が駆けつけてくださり、熱心にご指導いただきました。

鯨ヶ沢甚句は、町に長く伝わる伝統芸能であり、舞戸小でも西海小でも毎年全校で踊る取り組みが続いています。ふるさと学習5本柱の1つ「歴史・文化」の取り組みでもあります。

練習では、保存会会長の工藤八子さんからは、指先の動かし方や手のたたき方に至るまで、とてもきめ細かなアドバイスをいただきました。

子どもたちは、練習を重ねるごとに、めきめきと上達していきました。

初めて踊った1年生も、練習の最後には1年生だけで堂々と踊れるようになりました。

最後に児童代表から、「踊りのポイントを教えてもらってよかったです。上手に踊れるようになりました。」と喜びと感謝の感想が伝えられました。

雨にも負けず、風にも負けず!舞戸小運動会



5月30日(土)、「みんなが楽しく笑顔いっぱいな運動会」をテーマに開催されました。

当日は、途中から雨と強い風に見舞われ、あいにくのグラウンドコンディションとなりました。

競技の続行が危ぶまれる場面もありましたが、徒競走とりレーは無事に最後まで実施することができました。何よりも胸を打たれたのは、そのような状況下でも、子どもたちが誰一人として諦めず、まっすぐにゴールを目指して全力で駆け抜けていたことです。この運動会で最後まで諦めずに取り組んだことが、これからの自信につながっていくことでしょう。

会場に足を運んでくださった保護者や地域の皆様も、雨風に負けない子どもたちのひたむきな姿に大きな拍手を送り、最後まで温かい声援で力強く後押ししてくださいました。

鯨ヶ沢町の災害史に耳を傾ける鯨中2年生



6月1日(月)の「ふるさと学習」は、町総括学芸員の中田書矢氏を講師に、鯨ヶ沢町の災害史について学びました。

生徒たちは、江戸時代から現代に至るまでの地震や津波の被害に加え、昭和20年の大然雪泥流、昭和33年の中村川水害、昭和47年の赤石川水害といった、町に甚大な被害をもたらした水害の歴史について真剣に耳を傾けていました。

今回は、「小学生に伝えること」を目標に学習を進めていくとのことで、学んだことを自分の言葉で小学生に伝えるためには、より理解を深める必要があります。

伝える側の中学生にとっても、受け取る側の小学生にとっても郷土の歴史への理解を深める素晴らしい取り組みになると期待しています。